

20周年記念記事

－歴代会長からのメッセージ－ 第10期会長を終えて

第10期会長 古橋 武



民主党が政権をとりました。日本の政治が大きく変わろうとしています。とても大きな変化のひとつにマニフェストがあります。民主党の新大臣が「マニフェストに書いてあるからやる」と宣言していることに痛快感とさわやかさを覚えながら、なるほど、マニフェストとはこうやって使うのかといまさらながらに認識しています。我々国民は、民主党がマニフェストをどれだけ実現できるかを期待と不安を抱きながら注視していくことと思います。

ひるがえって、当学会では第7期会長の廣田薫先生が会長就任挨拶(Vol.13, No. 4, 2001)にて初めてマニフェストを示されました。私も廣田先生にならい、就任挨拶(Vol.19, No. 4, 2007)にてマニフェストを掲げました。今改めて自分の挨拶を読み返してみますと、問題意識は間違っていないかとは思いますが、マニフェストの使い方についての理解、実現する気迫が足らなかったと感じています。第11期会長の高木友博先生の就任挨拶(Vol.21, No. 4, 2009)の学会再生Task Force の設立宣言に元気をもらい、再生TFが打ち出すであろう案に大いに期待しています。

さて、学会の発展の基本は、世界レベルの研究発表拠点となるトピックを持っていること、論文誌が魅力的であること、に尽きると思っています。

90年代はじめのファジィ学会は「ファジィ制御」「ファジィ推論」「ファジィ集合論」「ファジィ測度」などキラキラときらめくトピックに溢れていました。90年代半には「ニューラルネットワーク」「遺伝的アルゴリズム」などの新しいトピックを加えて、ますます盛んに研究発表がなされていました。しかし、00年代に入り、ファジィ学会は新しいトピックを見失ったように見受けられました。主観的には「ファジィクラスタリング」「遺伝的アルゴリズム」の健闘がありましたが、学会はこの頃停滞期にあったということができません。

エポックは03年の学会名称変更です。これ以降、学会誌では毎号特集企画がなされるようになりました。03年の当初は「チャンス発見とソフトコンピューティング」「ソフトコンピューティングとインターネット」など当学会に軸足をおきながら新しいトピックへの展開が意識されたテーマが選ばれていました。その後、特集企画は新しい分野へと軸足のシフトが見られ、「感情」「情報可視化：多次元データからの知識抽出技術」「ソーシャルインテリジェンス」「セキュリティとトラスト」「脳と知覚」「Webインテリジェンスとインタラクション」等々、おもしろい企画論文が次々と発表されています。同時期に始まったSCIS & ISISにおいても新しいsessionが組まれてきています。SCIS&ISIS2008ではBrain and Perception, Human Symbiotic System, Intelligent Multimedia Processing, Textual Data Analysis, Intelligent Interaction and Visualization, WEB System, Bayesian and Particle Methods, etc. とこちらも多彩でした。字数の制限で、他の特集企画、sessionのリストアップは割愛です。

これらの新しいトピックをいかにして学会に定着させられるか？ 第10期理事会において、査読プロセスの電子化・高速化、年度途中の事業補助金制度の実現を果たすことができました。他学会にない査読プロセスの超高速化、萌芽的研究会への会議補助、等々、今後の施策に期待です。財政的な余裕はSOFTの新たな魅力作りには大きな自由度を与えています。

SOFTが誇れる魅力に重鎮と新米の境界がファジィであることが挙げられます。ファジィという学問がもたらす不思議な効果です。多くの新しい方にこの魅力に触れていただければしめたものです。SOFTは不滅です。